

令和3年度第5回 感染症発生動向調査部会

令和3年8月18日

月番：加藤 達雄

1 前月の感染症発生動向について（2021年第26週～30週・7月）

<全数把握対象疾患>

- ・結核は、本年累積で対前年比74.8%と減少傾向が続いている。年齢別にみると、20才～40才代と70才以上の二峰性分布がみられる。
- ・腸管出血性大腸菌感染症は、当月13例発生がみられ、うちO26が5例と多い。
- ・レジオネラ症は、当月14例の報告があった。累計で前年比185%と増加している。

<定点把握対象疾患>

- ・RSウイルス感染症は、19週から急激に流行がみられたが、29週より減少している。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、前月比152.6%と増加しており、岐阜地域で特に増加している。
- ・ヘルパンギーナは、24週以降増加がみられ、岐阜地域で特に増加している。

2 検討すべき課題

<保健環境研究所から>

- ・RSウイルス感染症について

<感染症対策推進課から>

- ・STD定点の変更について

3 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・新型コロナウイルス感染症における中和抗体薬「カシリビマブ及びイムデビマブ」の承認について

4 その他（感染症対策推進課から）

- ・腸管出血性大腸菌感染症に関する注意喚起について

<検討結果>